

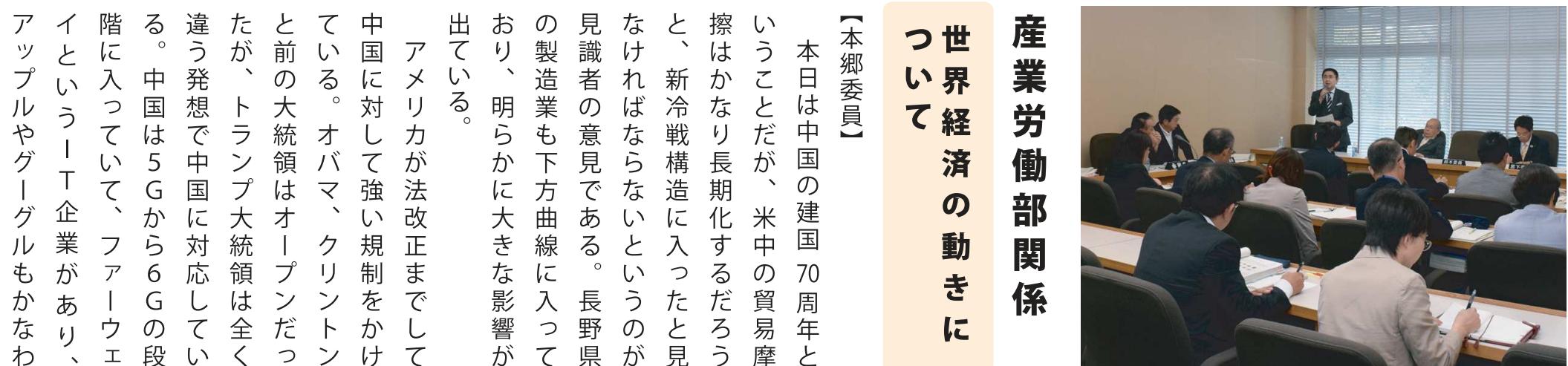


# ほんごう一彦 県政報告

(令和元年10月)

(発行) 自由民主党県議団松本第2支部  
松本市小屋南1-1-2-7  
TEL: 0263-85-5153, FAX: 0263-85-5160  
<http://h-kazuhiko.jp>

## 令和元年9月定例会 産業観光企業委員会 質疑要旨



### 産業労働部関係

#### 世界経済の動きについて

【本郷委員】

本日は中国の建国70周年と  
いうことだが、米中の貿易摩  
擦はかなり長期化するだろう  
と、新冷戦構造に入ったと見  
なればならないというのが  
見識者の意見である。長野県  
の製造業も下方曲線に入つて  
おり、明らかに大きな影響が  
出ている。

アメリカが法改正までして  
中国に対して強い規制をかけ  
ている。オバマ、クリントン  
と前の大統領はオープンだっ  
たが、トランプ大統領は全く  
違う発想で中国に対応してい  
る。中国は5Gから6Gの段  
階に入っていて、ファーウェ  
イという一IT企業があり、  
アップルやグーグルもかなわ  
ない状況がかなり普遍化して  
いる。

令和になって経済は非常に  
不透明で不安定な状態にある  
というのが現実であり、緩や  
かな回復という日銀松本支店

800万人が後期高齢者とな  
り社会保障制度に直撃するが、  
その時に行政が何をすべきか  
言うまでもないが、頑張って  
いただきたい。

全体像としては国際情勢の  
ファンダメンタルズが基本的  
に変わってきているという認  
識を持つうえで、私どもが東  
アジアに対する戦略を組まな  
いと、政治と経済は極めて密  
接不可分な関係であり、特に  
EUではドイツは一人勝ちだ  
が、議会政治発祥のイギリス  
が混迷を深めている状況も含  
めて、国際社会のファンダメ  
ンタルズが構造的に変化して  
いると、こういうものを視野  
に入れながら長野県の戦略を  
組んでいかないと時代に先遅  
れていく。日本全体が世界の  
中でITでは遅れているわけ  
ですから、次元の違う話であ  
るがご精励いただきたい。

国家重点施策においては、産業  
支援だけでなく、人材の育成  
と確保という観点からも両輪  
として取り組んでいる。  
重点施策ではAI・IoT  
先端活用新技術創出支援とし  
て、4月にAI活用/IoT  
デバイス事業化・開発セン  
ターを開設し、IoT分野に  
おける高付加価値化に取り組  
み始めた。

産業人材の育成、確保につ  
いては、8割近くの学生が県  
外に出て、長野県に戻つて就  
職する率が4割という中、高  
度な技術、専門性を持つ人  
材の不足は事実であり、大学  
と連携し、インターンシップ  
の促進やプロフェッショナル  
人材の誘致のためのマッチン  
グにも力を入れている。これ  
らの成果は即効性があるもの  
ではないので、中長期的な観  
点で取り組みながら成果を挙  
げていきたい。

また、個別プロジェクトに  
ついては、地域の特徴を生か  
して、例えば佐久地域では病  
気の予防という観点の新たな  
産業の創出・集積を目指して  
おり、長野・北信地域では発  
酵食品、機能性食品の集積を  
目指すなど、それぞれの地域  
で取組を進めている。  
県内総生産額を見ると、な  
かなかリーマンショック前に  
は戻らないが、徐々に近づい  
てきている状況と考えている。  
たところだが、計画期間の最  
終が令和4年度であり、今申  
し上げたのはアウトプットの  
成果だが、アウトカムの更な  
る成果を目指し取組を進めて  
いく。

### 企業局関係

#### 長野県公営企業経営 戦略の改定について

【本郷委員】

2018年5月のアメリカ  
のイラン核合意からの離脱表  
明以降、中東地域の緊張が非  
常に高まっており、特にアメ  
リカとイランの対立が大きな  
懸念材料である。

日本はエネルギー需給率が  
数%で、食料自給率は力口  
リーベースで38%くらいであ  
る。我が国の存続として、エ  
ネルギーの安定確保が危ぶま  
れる事態で、エネルギー調達  
の多様化を一層進める必要性  
を国際情勢の中で再認識した  
ところである。  
9月23日、ニューヨークに  
おいて国連の気候行動サミット  
が開催された。このサミット  
では、若者を代表してス  
ウェーデンの環境活動家、16  
歳のグレタさんが世界の指導  
者が地球温暖化対策に本腰を  
入れていない現状について強  
くアピールをした。

## 令和元年9月定例会 産業観光企業委員会 質疑要旨(続き)

(表面の続き)

20日には東京、ロンドン、シドニーなど約400万人の若者が街頭デモを実施するなど、各国に脱炭素社会に向かった取組のインセンティブを与えたことが大きく印象に残っている。したがって、政治が県政、国政においても政治家あるいは行政が文明論を再認識しなければ、地球の永遠性は担保できない、歴史的転換期に来ているという基本認識を持ったところである。

政府は2016年5月に「地球温暖化対策としては、排出量を2030年度に2013年度比マイナス26%としているが、特に福島の問題があり内在する問題は複合的だが、石炭火力発電所の新增設計画などについては、国際社会から非難がある。また、台風15号により社会インフラが壊滅的な状況になつていると、いう概括的な基本認識のうえで質問させていただく。

成28年度以降の経営状況は、電気、水道ともに、計画を上回る利益を計上し、経営の安定が確保されている。しかし、電力の小売自由化に伴う売電価格の変動や2020年度に見直しが予定されるFIT制度に不透明感があり、また、水道事業においては、人口減少に伴い水需要が減少していくことが予測されている。

このような情勢を踏まえ、現在、改定作業中の経営戦略では、安定経営を維持しつつ、将来にわたり住民生活に不可欠なライフラインを維持できるよう、投資財政計画の作成作業を進めているところである。

意を払つていくことが必要と考えている。

## 観光部関係

〔本鄉委員〕

観光業の人

いずれにしても、企業局事業を取り巻く状況の変化を踏まえつつ、将来にわたり質の高い住民サービスを安定的に提供できるよう、組織の見直しや人材の確保、先端技術の活用などを通じて、更なる経営努力を図つてまいりたいと考へている。

意を払つていくことが必要と考えている。

水道事業について、特に、末端給水事業については、当面、現行の料金水準を維持して安定的経営を維持できるものと考えているが、長期的にみると、日本全体が人口減少社会を迎える中で、企業局の水道事業も同様に、人口減少による水需要が減ることから、経営が厳しくなるものと認識している。今後は、このような社会情勢の変化を十分想定していく中で、関係市町村との広域連携なども検討しながら、効果的、効率的な経営ができるよう、しつかり取り組んでいかなければならな

【大槻觀光誘客課長】

人手不足・人材不足は、業種を問わず全国的な課題となっている。観光部が昨年行つた観光に関するアンケート調査の結果によると、「従業員が不足している」と答えた観光事業者は 46・1% で、また、人材確保に向けた取組の中でも、「外国人材の積極的活用」については「実施中」又は「実施したい」と回答した事業者が 29・3% と関心

として3つあり、県内観光業は慢性的な人手不足や労働環境の改善等が必要との意見が多いということ、人手不足の働き方改革、外国人材の活用への対応を要望する意見もあつたと挙げられている。

観光部長も知事と一緒に、トナムを訪問し、人材育成に関する覚書を締結したと報じをいただいたが、観光業の人手不足を解消するため、外人材の受け入れを含め、どのような取組を具体的にしていくか、今後の方針について伺う。

シップ推進員を1名配置し、県内の大学や専門学校、高等専門学校等のインターインシップ希望者を開拓するとともに、受入企業とのきめ細やかなマッチングを実施している。

先月初めには、日本学生連盟と全旅連青年部と連携したインターネットシップ事業を山ノ内町をフィールドに、名の学生に参加いただき開催した。旅館・ホテルの労働環境の課題や改善点、また地域の観光振興等について逆に提案をいたくなど、観光事業者や我々にとつても非常に魅

また、名古屋・東京で開催したインターンシップフェアに産業労働部とともに参加し、県内観光業の現状や移住等について伝える場を設けている。

外国人材の関係では、外人材採用支援事業を実施するほか、産業労働部が行う国際説明会「グローバル・キャリア・フェア」、今年度1回目は5月に開催しているが、

こに県内の観光事業者の出で、支援を行つた。

また、国際課が窓口となり、日中友好事業の一環として、平成24年度から中国の大学生のインターンシップを現在実施している。今年は春・夏に19か所のホテル旅館で受入れており、67名の学生がインターンシップを行つた。

こうした事業を踏まえ、今後の取組みとしては、今後

A man in a grey pinstripe suit, white shirt, and striped tie is standing and speaking into a handheld microphone. He is holding a white folder or document in his left hand. He is wearing glasses and has a name tag pinned to his lapel. To his right, another man in a grey suit is seated at a desk, looking down at some papers. The background features large windows with horizontal blinds. A small bottle of water sits on the table in front of the speaker.

